

国指定 天然記念物

松之山の大ケヤキ

石 沢 進

東頸城郡松之山町大字湯山の松茸神社境内に立つケヤキの巨樹は、日本一の大きさを誇っていたが、年と共にその姿が変貌して大樹の景観を失ってしまった。かつて目通り13.3m、高さ30m、枝のひろがり東西35m、南北18mであった（1983年5月9日の写真参照）が、1984年の大雪で幹の一部が倒れ、その後ワイヤーで倒れないよう保護

してきた。しかし、1994年5月に樹勢のよかった若木の幹が倒れてしまい、老木部分のみが残存する形になり、現在はその面影がなくなって記念物としての価値も消失寸前の状況になってしまっているのは残念なことである。かつての樹勢の姿と現在の樹の写真を掲載し、その変貌を紹介しておきたい【枝張のよかった頃の樹幹（表紙1）】。



枝張のよかった頃の樹勢
1983年 5月9日



大雪で幹の一部が倒れた後の樹 1984年 6月1日



若木の幹（左側）が倒れて老木部分のみが残存する樹
老木はワイヤーで倒れないよう保護 1994年 5月30日